令和６年度 比叡平小学校 校内研究

Ⅰ　研究主題

教科等	研　究　主　題
国語科	“つながり学び合う”国語科授業の追究 ～　聴き合い、思考を深める児童の育成を目指して　～

Ⅱ　主題設定の理由

本校の児童は、乳幼児期における家庭での確かな育ちや、芸術家をはじめ多様な人材がいる地域との関わり、身近にある豊かな自然環境等、様々な恵まれた養育環境によって、多くの子が感性豊かで、学習活動にも前向きに取り組むことができる。そうした中、本校は平成21年度より、文言の違いはあれども、児童同士の対話を重視した「学び合い」（≒「協働的な学び」）を研究主題にして、学力向上を目指した授業づくりに取り組んできた。例年「全国学力・学習状況調査」や県の「学びの基礎チャレンジ事業」で、本校がある一定の結果を維持しているのは、前述の児童に備わっている力と、学校の取組が合わさっての成果であると考える。

昨年度は、「つながり学び合う」の学校目標のもと、多様な考えが生まれやすい文学的文章の読み取り学習を中心に、『一人読み』（個の読みの構築）と『聴き合い』（対話）を交互に行う学習形態の定着に向けて取り組んだ。その結果、学習についてのアンケートでは「協働的な学び」での思考の深まりに対する肯定的解答が多く、思考の深まりを児童が実感し、定着しつつある。しかし、研究授業での子どもたちの姿からは「対話をつなぐのは自分たち」という意識がまだ低い様子がうかがえ、教師団からは「一方通行的な考えの発表にとどまっている」との評価があった。つまり、「協働的な学び」の対話のスタイルは実践できているものの、本来のねらいである「思考の深まり」まで児童を導くことができていないということである。

そこで今年度は、研究主題「“つながり学び合う”国語科授業の追究」は継続し、対話させることが目的ではなく、対話をつなぐことで児童が多様な考えに出会い、自らの考えを広げたり深めたり、表現を変容させたりしながら学びを深める「協働的な学び」をねらいに取り組んでいく。対話をつなぐためには、『一人読み』と『聴き合い』の両方の場面で、児童の思考を深める授業者の出処（問いかけ）について実践力を高めていきたい。より良い学級集団づくりをより進めていくために、昨年度一部の学年で取り組んだ「タブレットを活用したスピーチ」を全校で取り組んでいく。

質の高い学びを実現し、今後「協働的な学び」を本校の基本の学習形態として児童に定着させるためには、全教職員の指導力向上が不可欠であり、具体的には次項「Ⅲ　研究内容」に記した授業改善に取り組んでいく。さらに、「協働的な学び」に関する指導技能の確実な修得のために、「協働的な学び」を研究する先進校での実践研究の牽引者を授業研究会に招き、指導・助言を受ける予定をしている。

Ⅲ　研究内容

○“つながり学び合う”国語科授業の追究

①互いを尊重し合い、より良い学級集団をつくる。

その一環として、タブレットを活用したスピーチに全校で取り組む。

②教材研究を深め、単元のねらいを明確化し、ねらいに迫る授業構成と支援の工夫を行う。

③児童の思考の深まりに有効な対話の話題（課題設定・発問）とタイミングを設定する。

④児童の発言をしっかり聴き、対話のつなぎどころ、じっくり考える立ち止まりどころを見極める。

○読む力・書く力を育成する全校的な取組

・毎週火曜日の朝のモジュールタイムに、新聞記事の要約や読解問題（3～6 年生）、短作文（1・2 年生）に取り組む。

Ⅳ　研究・研修計画

月	校　内　研　究	職員研修
4 月	学ぶ力向上委員会（16 日：研究概要の確認） 学ぶ力向上委員会（19 日：具体的取組の確認） 校内研究全体会（24 日：研究の取組・具体的取組の確認）	活動内容の検討 研究テーマ・取組の確認
5 月	学ぶ力向上委員会（2 日：研究授業①に向けて）	教材研究・授業構成
6 月	**研究授業①**・全体授業研究会(12 日：２年) **研究授業②**・授業参観(19 日：特別支援)	**奈良女子大学附属小　西田主幹による「文学的文章」指導法講座①**
7 月		
8 月	校内研究全体会②（29 日：研究授業③④に向けて）	教材研究・授業構成 **奈良女子大学附属小　西田主幹による「文学的文章」指導法講座②**
9 月		
10 月	学ぶ力向上委員会（4 日：研究授業④に向けて）	教材研究・授業構成
11 月	**研究授業③**・授業研究会(6 日：４年)	**奈良女子大学附属小　西田主幹による「文学的文章」指導法講座③**
12 月	学ぶ力向上委員会（17 日：研究授業⑤に向けて）	教材研究・授業構成
1 月	**研究授業④**・授業研究会(２４日：３年)	**学ぶ向上訪問**
2 月	**研究授業⑤**・全体授業研究会(5 日：５年)	**奈良女子大学附属小　西田主幹による「文学的文章」指導法講座④**
3 月	校内研究全体会⑤（13 日：まとめ、次年度研究の検討）	

Ⅴ　校内研究体制の概要

校内研究全体会

学ぶ力向上委員会

校長　教頭　教務(研究主任)　学ぶ力向上委員（学年部代表）

研究主題・研究内容の検討　研究授業の日程調整　研修会の計画・運営
教材指導案の検討　研究の記録　まとめ　等

提案・検討・確認

学　年　部

低学年部(1,2 年)　中学年部(3,4 年)　高学年部(5,6 年)　特別支援部（2,3 組）

研究授業の検討（教材・授業構成・指導案）　ペア学年同士の相互参観　等

Ⅵ　過去５年間の研究主題と指定研究歴

＜研究主題歴＞

令和元年度　子どもが主体的に探究する授業づくり
～ 地域とともに、子どもがより深く考え、支え合い、高め合う授業の創造 ～

令和２年度　情報を読み解き、豊かに表現できる子どもの育成
～ 自分の思いや考えを『書く・話す』ための系統的指導の追究 ～

令和３年度　情報を読み解き、豊かに表現できる子どもの育成
～自分の思いや考えを『書く・話す』ための系統的指導の追究～

令和４年度　主体的・対話的で深い学びの授業の創造
～　学び合い、聴き合い、つながり合える児童の育成を目指して　～

令和５年度　“つながり学び合う”国語科授業の追究
～　聴き合い、思考を深める児童の育成を目指して　～

＜指定研究歴＞

平成２５年度～２７年度　滋賀県教育委員会指定　学力向上アプローチ事業（理科）